沼津市
明治史料館通信

1989.7.25（季刊 年4回発行）Vol.5 No.2 通巻第18号

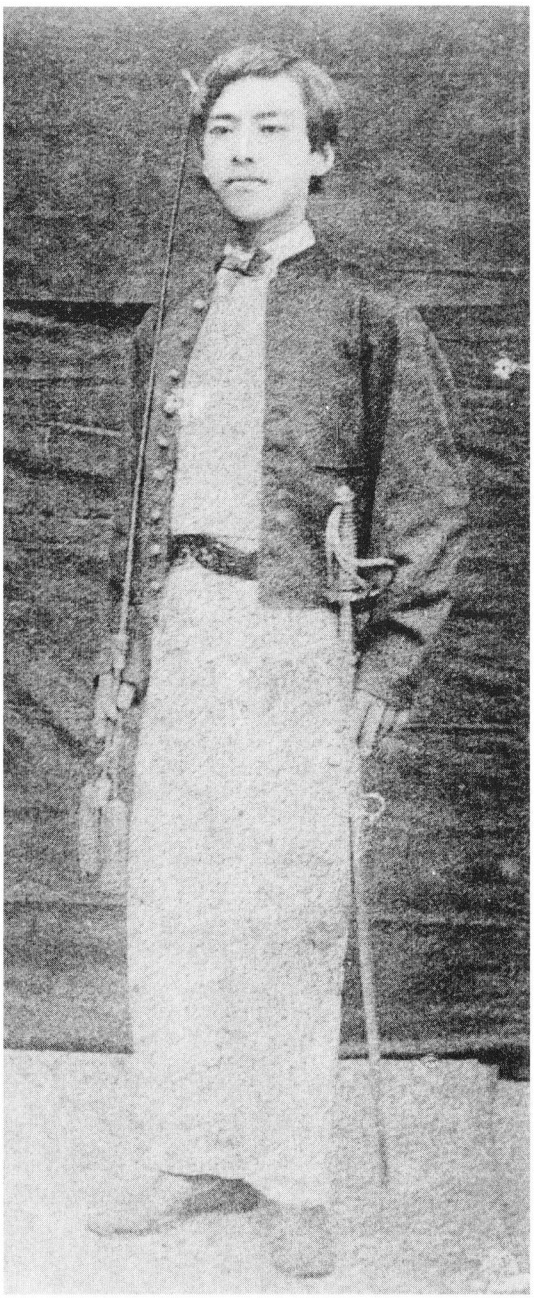
シリーズ 沼津兵学校とその人材 ⑰

福井藩からの留学生

沼津兵学校には他藩から多くの留学生が集まった。特に福井藩は多数の藩士を送り込んできた。明治二年（一八六九）十月から十一月にかけ、永見裕を引率者として、松平八十一、本多英雄・本多勝三郎（貴一）・津田束（捨五郎）・松原秀成（平）・明石源蔵・粕谷素直・木滑貫人・坂野秀雄（秀三郎）らが来沼し、兵学校に入学した。この他、佐久間正（若代漣蔵）・杉田悦三郎・服部寛一（越前大野の人か）といった福井藩留学生の名前も知られる。うち松平・津田・松原・坂野・佐久間・杉田の六名は資業生に及第している。

福井藩からは沼津留学生に対し「修行生規則」が達せられ、学業の精励と生活態度の謹慎が厳しく求められていた。しかし、福井藩をはじめ諸藩からの留学生は学資が豊かで、中には妓楼を下宿にして通学した者もあったほどで、維新の敗北者たる貧しい旧幕臣・静岡藩士にとっては羨望の的になっていたといわれる。

福井藩留学生は、「修行生規則」では明治四年八月まで修業し帰藩すること



沼津兵学校時代の松原秀成
（熊取正光氏所蔵・山下英一氏提供）

と規定されていたが、明治三年九月西周が政府の徴命をうけ上京したため、その後を追って沼津を離れた。同年十一月には西が浅草鳥越三筋町の自宅に開いた家塾育英舎にそろって入塾し、引き続き西の薫陶を受けた。

以下福井藩の沼津兵学校留学生のうち経歴がある程度判明する人物について紹介してみよう。

永見裕（ゆたか） 天保十年（一八三九）福井藩士永見一学の次男に生まれる。諱は吉復、静竹舎を書斎号とする。安政二年（一八五五）藩校明道館に入学、のち句読師をつとめる。慶応二年（一八六六）京都で西周に入門し、英学を学ん

だ。戊辰戦争では北越戦線で戦功をあげ、帰藩後軍事掛となった。明治二年九月沼津留学修業生徒寮長に任命され、留学生数名を率いて来沼した。彼自身は兵学校に入学はしなかったが、教授の田辺太一や杉亨二に教えを受けた。明治三年西の後を追って上京し、育英舎に入った。この頃、旧藩主松平春嶽に英語を教えていたという。やがて陸軍に奉職し、兵部中録（四年）・陸軍中尉（七年）を歴任、さらに山形県や宮城県の官吏に転じ学務を担当した。仙台在住中に開いていた私塾の門弟のひとりに高山樗牛がいた。明治三十五年（一九〇二）北海道に渡り、同年小樽で没した。彼が育英舎時代の西周の講義を筆記した「百学連環」の写本は、西の学問・思想を研究する上で貴重な史料となっている。個人的にも彼は西の女婿になった。すなわち鎮子夫人は西周の養女であった。

松原秀成　嘉永七年（一八五四）福井藩士松原十郎義成の長男に生まれる。幼名平。松原家は知行高三百石で、秀成はその九代目当主。明治二年十月十五日沼津に到着し、米屋藤十郎方に止宿する。明治三年九月兵学校第六期資業生に及第したが、同年十月二十五日沼津を出立し上京、十一月十六日育英舎に入塾した。明治六年（一八七三）新潟英語学校教諭となり、九年横浜二十八番ヘラルド新聞社和文翻訳者に転じ、十二年には郷里福井で私塾研成義塾を開いた。十四年（一八八一）福井中学校英語教諭となり、以後福岡師範学校・和歌山中学校・富田林中学校・福井商業学校・北陸中学校などで教鞭をとった。大正十三年（一九二四）没。『英文典術語集』『学芸之進歩』などの著書がある。なお彼の実弟雨森信成（一八五八～一九〇六）は、横浜でブラウンに学びクリスチャンになった横浜バンドのひとりであり、英語教師としてもラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の親友・協力者として知られる。

斎藤修一郎　彼は正確には福井藩士ではなく、同藩の支藩である越前武生藩士である。しかし他の福井藩士といっしょに来沼したので、ここで紹介しておこう。斎藤の家は武生藩の眼科医であった。修一郎は安政二年（一八五五）に生まれた。幼くして両親を失ったが、秀才の誉高く、藩校立教館で学んだ。明治二年来沼し、沼津兵学校附属小学校に入学した。沼津時代の彼は、他の旧幕臣子弟が駿河半紙でさえ思う様に買うことができなかったのに対し、高価な西洋紙を惜し気もなく使い、服装や持物からして貴公子のようであったという。明治三年武生藩の貢進生として大学南校に入学、開成学校法学部を卒業した。明治天皇の学校行幸に際し、法学生徒を代表して英語で御前講義を行った。明治八年（一八七五）文部省第一回留学生に選ばれ、鳩山和夫・小村寿太郎らとともにアメリカへ渡り、ハーバード大学・エール大学に学んだ。十三年帰朝し、十六年外務少書記官になり、中上川彦次郎・藤田四郎・都筑馨六とともに井上馨の四天王といわれた。以後、外務権大書記官・外務省翻訳局長・外務大臣官房心得・条約改正会議秘書官を歴任、さらに農商務省に転じ、商工局長・農務局長・農商務次官をつとめた。明治二十七年（一八九四）東京米穀取引所収賄事件により農相後藤象二郎とともに退官、実業界に転じ、内国鉄道会社取締役・東京米穀取引所理事長・中外商業新報社長などをつとめた。明治四十三年（一九一〇）没。

斎藤修一郎
（『日清戦争実記』14編より）

＊　＊　＊

〈参考文献〉大久保利謙「永見裕と西周」『伝記』六―十二（一九三九年）、同「松平春嶽公と永見裕」『伝記』七―一（一九四〇年）、山下英一「人間雨森信成(一)」『若越郷土研究』33の4（一九八八年）、唐沢富太郎『貢進生』（一九七四年）、伊東圭一郎『東海三州の人物』（一九一四年）、金城隠士「沼津時代の回顧」『静岡民友新聞』（一九一三年）、その他熊取正光氏・山下英一氏の御教示による。

ぬまづ近代史点描 ⑬

杉山輯吉

―沼津藩出身の工部大学校第一期生―

沼津藩は小藩だったが明治・大正期に様々な方面で業績を残した人物が少なからず輩出している。ここに紹介する杉山輯吉も沼津藩が生んだ人材のひとりである。

杉山は安政二年（一八五五）父熊叟（熊次郎）の子として沼津城内に生まれた。同家はもと沼津志多町に居住していたが、数代前の先祖五兵衛のとき寛政期に沼津藩に召し抱えられた家であった。

維新後沼津藩は上総国に転封され菊間藩となったが、杉山家も同地へ移住した。輯吉は菊間藩の貢進生として海軍兵学寮に入学したが、明治五年（一八七二）十月には退学し、翌六年八月に工学寮工学校甲科生徒に合格し、官費入校を許された。明治十年（一八七七）同校は工学大学校と改称されたが、杉山は明治十二年十一月に第一回卒業生二十三名のひとりとして卒業した。

工部大学校は、現在の東京大学工学部の前身にあたるが、英人ダイアーをはじめとする御雇外国人を教授陣に揃え、高度な工業技術教育を行った。杉山は土木科だったが、他に機械・造船・電信・化学・造家・冶金・鉱山といった学科があり、同期卒業生には、辰野金吾・片山東熊・高峰譲吉・石橋絢彦らがいた。なお同じ菊間藩出身で、海軍兵学寮でもいっしょだった辻邑容吉も、第二期生として土木科を卒業している。

以後の杉山の主な経歴は以下の通りである。工部八等技手（明治十二年）、長野県道路開鑿委員（十六年）、農商務省御用掛（十七年）、東京で設計事務所開業（二十一年）、台湾総督府民政局技師（二十九年）、非職（三十年）。その間各地で道路・鉄道・港湾などの建設を指導した。

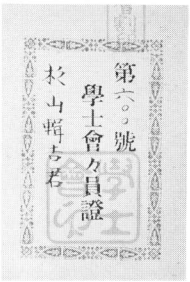
彼が明治十五年（一八八二）に『工学叢誌』に発表した論文「日本鉄道延線論」は、近代化政策における鉄道の重要性や将来展望を説いたものとして注目される。

第一線を退いた後は、沼津や長野県で晩年を過ごし、昭和八年（一九三三）に亡くなった。杉山家代々の墓は沼津市幸町の永明寺にある。

＊　＊　＊

〈参考文献〉宇田正「明治10年代上信地方道路開鑿調査活動の一展開：史料紹介」『追手門経済論集』12―3、13―2（一九七八年）、『日本近代思想大系14　科学と技術』（一九八九年　岩波書店）。

▶左より父杉山熊叟45歳、輯吉18歳、妹くら15歳。明治七年六月十三日東京で写したもの（尾崎明氏所蔵）



▶学士会々員証と工学会正員之証（杉山熙氏所蔵）

お知らせ欄

◎企画展「沼津藩の人材」はじまる！

8月1日より企画展「沼津藩の人材」がはじまります。沼津藩の家臣のうち、藩政・学問・武道・芸術などの分野に足跡を残した人物をはじめ、維新後転封された菊間藩での人材、廃藩後明治・大正期における出身者の活躍なども含め紹介します。開期は9月29日までです。また、歴史民俗資料館でも特別展「沼津藩とその周辺」を同時開催しております。合わせて御観覧下さい。また歴史講座「沼津藩の人材」にも御参加下さい。

歴史講座「沼津藩の人材」（会場：明治史料館講座室）

8月6日(日)　平野日出雄氏（フリーライター）
「沼津藩草創期の家臣たち」
8月13日(日)　道家　達将氏（茨城大学教授）
「工業教育の父―東京工業大学をつくった―手島精一」
8月20日(日)　土屋　重朗氏（医学史研究家）
「沼津藩の藩医たち」
8月27日(日)　秋山　繁雄氏（元明治学院大学史料室）
「沼津藩出身のキリスト者・三浦徹と服部綾雄」
9月3日(日)　館学芸員のスライドによる解説
「沼津藩士の群像」
※時間はいずれも午後二時より四時まで

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書にはじめて接する初心者を対象に開講します。受講希望者は、当館まで電話でお申し込み下さい。

日程：10月22日、29日、11月5日、12日、19日、26日の毎日曜日（6週連続）
時間：午後2時～4時
場所：明治史料館講座室
講師：友野博氏（元沼津市立高校教頭）
受講料：無料
テキスト：当館で用意
※辞書をお持ちでない方は斡旋致します。

◎資料閲覧室の図書を御利用下さい

2階の資料閲覧室には、沼津市や静岡県の地域史関係の文献をはじめ、近代史一般に関する図書なども揃えております。以下に紹介するのはその中の主なものです。どうぞご利用下さい。

『帝国議会衆議院議事速記録』（明治23～大正15年）、『帝国議会貴族院議事速記録』（明治23～大正15年）、『帝国議会衆議院委員会議録』（明治23～大正15年）、『帝国議会貴族院委員会速記録』（明治23～45年）、『帝国議会貴族院委員会会議録』（大正1～15年）、『帝国議会貴族院委員会議事速記録』（大正1～15年）、『枢密院会議議事録』（明治21～大正15年）、『自由党々報』（明治24～31年）、『憲政党党報』（明治31～33年）、『政友』（明治33～昭和15年）、『立憲改進党々報』（明治25～29年）、『進歩党党報』（明治30～31年）、『憲政本党党報』（明治31～42年）、『憲政』（大正7～14年）、『民政』（昭和2～16年）、『憲政公論』（大正14～昭和2年）、『團團珍聞』（明治10～40年）、『日本人』（明治21～39年）、『六合雑誌』（明治13～大正10年）、『女学雑誌』（明治18～37年）、『斯民』（明治39～昭和21年）、『人道』（明治38～昭和19年）、『ときのこゑ』（明治28～昭和23年）、『廓清』（明治44～昭和20年）、『殖民協会報告』『殖民時報』（明治26～35年）、『教育報知』（明治18～37年）、『蘭学資料研究』（昭和30～52年）、『同方会報告』『同方会誌』（明治29～昭和16年）、『旧幕府』（明治30～34年）、『史談会速記録』（明治25～昭和7年）、『季刊明治文化研究』（昭和9～10年）、『太政官日誌』（慶応4～明治9年）、『掃苔』（昭和7～18年）、『武徳誌』（明治39～42年）、『武徳会誌』（明治43～45年）。

沼津市明治史料館通信　第18号
編集　発行　沼津市明治史料館
〒410 沼津市西熊堂372―1
☎〇五五九(23)三三三五